

「くまもと・まち魅力向上協議会」

くまもと・まち魅力向上プロジェクトの一環で、『まちなか福祉月間「まちなか+one」』講演会、「考えよう+one」を開催



くまもと・まち魅力向上プロジェクトにおける『まちなか福祉月間「まちなか+one」』の第1弾「考えよう+one」で、福祉と共生社会をテーマにした講演会と「くまもと空中図書館まちピッチュ」を開催しました。

2018年6月2日（熊本市現代美術館）

食産業復興支援

地域の活性化支援

キリングroupでは、熊本県、日本財団との包括支援協定に基づき行っていた「『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援」の一環として、今年2月に熊本市中心市街地の活性化に取り組む「くまもと・まち魅力向上協議会」に対し、900万円の支援金を助成した。

同協議会では「まちに代々続く熊本らしさを世代問わず分かち合い、多様な人々が分け隔てなく交流できる場としてのまちの魅力を創造し、発信していく」とのビジョンを掲げ、活動を展開している。その一つとして、6月を「まちなか福祉月間」と位置づけ、中心市街地を訪れる人々に、「障がいを持つ人もそうでない人も安心して訪れることのできるやさしいまち」について考えるきっかけ作りとなる取り組みを行った。

6月2日には、「考えよう+one」として、これまで障がい者との創造的な企画を数々実践されてきたSLOW LABELの栗栖良依さんを講師に招き、「福祉と共生社会」をテーマにした講演会が熊本市現代美術館で開催された。自身が手掛けるアートを通して障がい者と健常者がコラボレートするイベントの紹介などを交えながら、社会の中にあるさまざまなバリアを取り除く取り組みの重要性を強調した。その後は、有識者とのクロストークも行われ、集まった約70人が熱心に耳を傾けた。またこの日は、美術館内に同協議会メンバーが作成した本棚を設置し、「くまもと空中図書館まちピッチュ」として開放した。

コメント①

SLOW LABEL(スローレーベル) 栗栖 良依 様

民間である中心市街地の商店主の皆さんが音頭を取って福祉月間を開催することは、とても新しい取り組みだと感じました。そうした部分にも、熊本の皆さんの新しいものに積極的に取り組む「わさもん」の気質が出ているのかもしれない。今必要なものを敏感に察知する感度の高さだけでなく、それに行動力も伴っているのがくまもと・まち魅力向上プロジェクトの素晴らしいところだと思います。熊本は大きな地震に見舞われ、さまざまなことが新たに創造されている時期ではないでしょうか。その意味で、2020年の東京五輪を機に変わろうとしている首都圏よりも一歩先を行く、先駆的な取り組みが出来るのではと期待しています。



コメント②

くまもと・まち魅力向上協議会 とこづくりプロジェクト推進リーダー 安田 征司 様

今回の『まちなか福祉月間「まちなか+one」』は、私たちが目指す「障がいを持つ人もそうでない人も安心して訪れることのできるやさしいまちづくり」に関する取り組みを、単発に終わらせないためのものです。そのスタートとなる講演会に多くの方が来てくださり、感謝申し上げます。栗栖さんのお話にもあった障がいを持つ人とそうでない人が、同じモノ・コトを楽しめる工夫が必要だと感じました。その中で、まちなかのハード面をすぐに変えることは難しいですが、「人の気持ち、行動」ならすぐにも変えられます。「まちなか福祉月間」を、今後も継続的に実施していくことで障がいを持つ人に対する意識や壁を取り除くことができればと思います。



コメント③

NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・熊本 副理事長 中村 勝子 様

今回の『まちなか福祉月間「まちなか+one」』は、とてもいい取り組みだと思います。今後取り組みを進めて行かれる中で、まちなかに障がいのある人もない人も一緒に集まれる場所があればいいと思います。そうした場所があることで、障がいのある人も、“まち”に出てくる理由ができるのではないのでしょうか。そこでさまざまな人と交流することが、障がい者にとってもプラスになると思います。



コメント④

社会福祉法人 愛火の会 野々島学園 土井 章平 様

私たちが生活していく上で、住む場所(とこ)の安心・安全は最も大事な要素です。その一つとしてプロジェクトで目を向けたのが「福祉」です。商店街がまちづくりの一環として福祉という視点を取り込んで発信するというのは、どこにもない企画だと思います。新たなまちづくりの人材を育成する上でも、こうした取り組みは重要ではないでしょうか。講演会にも多くの方に参加していただき、この取り組みを継続する意味を感じることができました。「未来の人材づくり」という長期的かつ手探りのプロジェクトに対して支援して下さったキリングループ様には、心から感謝いたします。プロジェクトを通じて生まれるさまざまなつながりが、将来の安心して暮らせるまちづくりに活かされればと思います。

